

細胞賦活用薬

薬効中分類及び事例

411 クロロフィル製剤 なし

412 色素製剤 なし

419 その他の細胞賦活用薬 アデニン

腫瘍用薬

薬効中分類及び事例

421 アルキル化剤 テモゾロミド

422 代謝拮抗剤 テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム

423 抗腫瘍性抗生物質製剤 なし

424 抗腫瘍性植物成分製剤 エトポシド

429 その他の腫瘍用薬 ビカルタミド

(ビ)

419その他の細胞賦活用薬
＜企業提案例＞

アデニン

くすりのしおり

4100000F000

444444444

内服剤

2008年1月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリ錠 10mg

主成分：アデニン（Adenine）

剤形：白色の錠剤、直径 6.4mm、厚さ 3.0mm

シート記載：Kusuri、277、クスリ、クスリ 10mg



この薬の作用と効果について

骨髄細胞の RNA、DNA に取り込まれて、核酸合成に利用され、白血球の減少を抑え、増加させます。通常、放射線曝射ないし薬物による白血球減少症の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。痛風、尿路結石
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ：医療担当者記入
- ・ 通常、成人は 1 日 2～6 錠（主成分として 20～60mg）を服用します。治療を受ける疾患や年齢・症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時点で 1 回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は、忘れた分を飲まないで、次の飲む時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

副作用として、発疹、かゆみなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 突然に足の親指のつけねが激しい痛みを伴い腫れる、発熱 [高尿酸血症、痛風]
- ・ 腰・背中が痛む、血尿、尿の量が減る [尿路結石、急性腎不全]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温（車の中などを含む）を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

<協議会内容確認後のコメント例>

この薬の作用と効果について

○作用の後、改行して効果を記載してください。

骨髄細胞の RNA、DNA に取り込まれて、核酸合成に利用され、白血球の減少を抑え、増加させ、回復促進させます。

通常、放射線曝射ないし薬物による白血球減少症の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

○文末は「がある。」で止めた方が据わりがよいのではないのでしょうか。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。痛風、尿路結石がある。

用法・用量（この薬の使い方）

○適応は一つなので、「治療を受ける疾患や」は不要です。

- ・ 通常、成人は1日2～6錠（主成分として20～60mg）を服用しますが、年齢・症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

○症状は添付文書の記載を優先しますが、ない場合は「くすりの副作用用語事典」などを参照し、簡潔に記載してください。

- ・ 突然に足の親指のつけねの激しい痛みを伴う発赤・腫れ、発熱 [高尿酸血症、痛風]
- ・ 腰背部痛、血尿、尿量減少 [尿路結石、急性腎不全]

保管方法その他

○1項目は作成基準の例示 (p.14) のように一般的なものに準じてよいのではないのでしょうか。

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。

<協議会修正案例>

くすりのしおり

4100000F000

444444444

内服剤

2008年1月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリ錠 10mg

主成分：アデニン（Adenine）

剤形：白色の錠剤、直径 6.4mm、厚さ 3.0mm

シート記載：Kususri、277、クスリ、クスリ 10mg



この薬の作用と効果について

骨髄細胞の RNA、DNA に取り込まれて、核酸合成に利用され、白血球の減少を抑え、増加させ、回復促進させます。

通常、放射線曝射ないし薬物による白血球減少症の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。痛風、尿路結石がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** **：** 医療担当者記入
- ・ 通常、成人は 1 日 2～6 錠（主成分として 20～60mg）を服用しますが、年齢・症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時点で 1 回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は、忘れた分を飲まないで、次の飲む時間に 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

副作用として、発疹、かゆみなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 突然に足の親指のつけねの激しい痛みを伴う発赤・腫れ、発熱 [高尿酸血症、痛風]
- ・ 腰背部痛、血尿、尿量減少 [尿路結石、急性腎不全]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

421 アルキル化剤

テモゾロミド

<企業提案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2009年2月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリカプセル 20mg

主成分：テモゾロミド（Temozolomide）

剤形：白色不透明のカプセル剤、長径 17.8mm

シート記載：

**この薬の作用と効果について**

この薬は、腫瘍細胞の増殖を抑え、抗がん作用を示します。
通常、悪性神経膠腫の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血傾向、腎障害、肝障害、感染症、水疱瘡がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> : 医療担当者記入>>
- ・ 初発治療の場合、放射線療法と併用し、通常、成人は主成分として 1 回 75 mg/m²（体表面積あたり）を 1 日 1 回連日 42 日間服用し、4 週間休薬します。
その後、本剤単独にて、主成分として 1 回 150 mg/m² を 1 日 1 回連日 5 日間服用し、23 日間休薬します。この 28 日を 1 クールとし、次クールでは 1 回 200 mg/m² に増量することがあります。本剤は 1 カプセル中に主成分 20mg を含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 再発治療の場合、通常、成人は主成分として 1 回 150 mg/m²（体表面積あたり）を 1 日 1 回連日 5 日間服用し、23 日間休薬します。この 28 日を 1 クールとし、次クールで 1 回 200 mg/m² に増量することがあります。本剤は 1 カプセル中に主成分 20mg を含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ カプセルのまま飲んでください。かみ砕かずに十分量の水とともに飲んでください。カプセルの内容物が身体に付着した場合は、速やかに洗い流してください。
- ・ 指示に従い、空腹時に服用するようにしてください。
- ・ この薬を飲んだ後に嘔吐があらわれることがあります。その場合、カプセルが吐き出されたかどうかにかかわらず、嘔吐した当日中にもう一度この薬を飲んではいけません。
- ・ 飲み忘れに気づいた場合には、その薬は飲まずにとぼして、次の決められた時間に次の薬を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ 主治医の指示を守って定期的に血液検査を受けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、倦怠感、頭痛、貧血、悪心、嘔吐、食欲不振、便秘、下痢、疲労などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 貧血症状、発熱、出血傾向 [骨髄機能抑制]
- ・ 発熱、咳、痰 [ニューモシスチス肺炎、感染症]
- ・ 発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・ 頭痛、嘔吐、片麻痺 [脳出血]

- ・呼吸困難、蕁麻疹、眼や口唇周囲の腫れ [アナフィラキシー様症状]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については、薬を受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

<協議会内容確認後のコメント例>

商品名

○シート記載が空欄ですが、ご確認ください。

この薬の作用と効果について

○「この薬は、」は不要です。添付文書で薬効薬理を補足してはいかがでしょうか。

腫瘍細胞のDNAの一部をメチル化してDNA損傷を引き起こし、細胞増殖を抑え、抗がん作用を示します。通常、悪性神経膠腫の治療に用いられます。

用法・用量（この薬の使い方）

○承認事項は一つの「・」でまとめ、初発と再発を見出し語にして記述し、共通事項を後ろにまとめた方がわかりやすいのではないのでしょうか。数字（1クール）は半角とし、数字と単位の間スペース（5ヵ所）を削除してください。できるだけ簡潔に記載してください。「,」→「、」。「飲み忘れ…」の前まで以下のように整理しました。ご確認ください。

- ・ **初発治療**：放射線療法と併用し、通常、成人は1回主成分として $75\text{mg}/\text{m}^2$ （体表面積）を1日1回連日42日間服用し、その後4週間休薬します。以後、この薬を単独で1回 $150\text{mg}/\text{m}^2$ を1日1回連日5日間服用し、その後23日間休薬します。この28日を1クールとし、次クールでは1回 $200\text{mg}/\text{m}^2$ に増量されることがあります。
 - ・ **再発治療**：通常、成人は1回主成分として $150\text{mg}/\text{m}^2$ （体表面積）を1日1回連日5日間服用し、その後23日間休薬します。この28日を1クールとし、次クールで1回 $200\text{mg}/\text{m}^2$ に増量されることがあります
- この薬は1カプセル中に主成分 20mg を含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ カプセルは開けず、また、かみ砕かずに十分量の水とともに飲んでください。カプセルの内容物が身体に付着した場合は、速やかに洗い流してください。
 - ・ 吸収を高めるので、できるだけ空腹時に服用するようにしてください。食後では吸収率が低下します。
 - ・ 服用後に嘔吐があらわれることがあります。その場合、カプセルが吐き出されたかどうかにかかわらず、嘔吐した当日中にもう一度この薬を飲んではいけません。

生活上の注意

○「医師の指示」に従うことなので、記載は不要です。特に記載する場合は「主治医」→「医師」としてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

○「悪心」は分かりやすい「吐き気」に置換えできます。

保管方法その他

○特別な場合以外、できるだけ作成基準の例（p.14）に従ってください。なお、劇毒薬の記載は省スペースのため、「、薬を」を削除してください。

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

欄外

○「患者向医薬品ガイド」も追記してください。

<協議会修正案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2009年2月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリカプセル 20mg

主成分：テモゾロミド（Temozolomide）
剤形：白色不透明のカプセル剤、長径 17.8mm
シート記載：



この薬の作用と効果について

腫瘍細胞の DNA の一部をメチル化して DNA 損傷を引き起こし、細胞増殖を抑え、抗がん作用を示します。通常、悪性神経膠腫の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血傾向、腎障害、肝障害、感染症、水疱瘡がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ：医療担当者記入
- ・ **初発治療**：放射線療法と併用し、通常、成人は 1 回主成分として 75mg/m²（体表面積）を 1 日 1 回連日 42 日間服用し、その後 4 週間休薬します。以後、本剤を単独で 1 回 150mg/m²を 1 日 1 回連日 5 日間服用し、その後 23 日間休薬します。この 28 日を 1 クールとし、次クールでは 1 回 200mg/m²に増量されることがあります。
- ・ **再発治療**：通常、成人は 1 回主成分として 150mg/m²（体表面積）を 1 日 1 回連日 5 日間服用し、その後 23 日間休薬します。この 28 日を 1 クールとし、次クールで 1 回 200mg/m²に増量されることがあります
- ・ 本剤は 1 カプセル中に主成分 20mg を含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ カプセルは開けず、また、かみ砕かずに十分量の水とともに飲んでください。カプセルの内容物が身体に付着した場合は、速やかに洗い流してください。
- ・ 吸収を高めるので、できるだけ空腹時に服用するようにしてください。食後では吸収率が低下します。
- ・ 服用後に嘔吐があらわれることがあります。その場合、カプセルが吐き出されたかどうかにかかわらず、嘔吐した当日中にもう一度この薬を飲んではいけません。
- ・ 飲み忘れに気づいた場合には、その薬は飲まずにとばして、次の決められた時間に次の薬を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ 医師の指示を守って定期的に血液検査を受けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、倦怠感、頭痛、貧血、吐き気、嘔吐、食欲不振、便秘、下痢、疲労などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 貧血症状、発熱、出血傾向 [骨髄機能抑制]
- ・ 発熱、咳、痰 [ニューモシスチス肺炎、感染症]
- ・ 発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・ 頭痛、嘔吐、片麻痺 [脳出血]
- ・ 呼吸困難、蕁麻疹、眼や口唇周囲の腫れ [アナフィラキシー様症状]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師また

は薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

422 代謝拮抗剤
<企業提案例>

テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム

くすりのしおり

4200000F000
 内服剤

444444444
 2009年6月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリ配合顆粒

主成分：テガフル（Tegafur）
 ギメラシル（Gimeracil）
 オテラシルカリウム（Oteracil potassium）

剤形画像準備中

剤形：白色の顆粒剤

シート記載：表面 K20mg/0.2g 包、裏面 K 20mg/0.2g 包

この薬の作用と効果について

この薬は、フルオロウラシルという抗がん剤の効き目を高め、副作用を少なくするようにした薬です。がん（腫瘍）を小さくすることで症状が軽くなるのが期待できます。
 通常、胃がん、結腸・直腸がん、頭頸部がん、非小細胞肺癌、手術不能または再発乳がん、膵がん、胆道がんの治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。骨髄抑制（白血球数などが少ない）、腎障害、肝障害、感染症、糖尿病、間質性肺炎または既往、心疾患または既往、消化管潰瘍または出血がある。
- ・ フッ化ピリミジン系の薬を使っている（お互いに作用を強め重篤な副作用が発現するおそれがあります）。
- ・ フッ化ピリミジン系の薬からこの薬に変更になった（このクスリを服用する前には休薬期間が必要です）。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> : 医療担当者記入
- ・ 通常、体表面積に合わせて1回2~3包（テガフルとして40~60mg）を1日2回朝食後と夕食後に28日間（4週間）連続で服用し、その後14日間（2週間）休みます。これを1クールとして繰り返します。なお、状態により適宜増減されますが、最低量は1回40mgです。
- ・ フッ化ピリミジン系の薬と絶対に一緒に飲んではいけません。
- ・ 服薬状況や、からだの状態、気づいた症状をメモしておき、診察時に医師または薬剤師に見せましょう。
- ・ 飲み忘れた場合は、次の服用時間に1回分服用してください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲む量や服用期間を変更しないでください。

生活上の注意

- ・ この薬の使用中は、症状のあらわれない副作用を見つけるためにも、定期的（2週間に1回以上）な臨床検査（血液、肝機能、腎機能検査など）が行われますので、受診日はできるだけ守ってください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、食欲不振、はきけ、嘔吐、下痢、体がだるい、口内炎、色素沈着、発疹、流涙などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 出血が止まりにくい、体がだるい、発熱、のどの痛み [骨髄抑制]
- ・ 皮膚が黄色くなる、体がだるい、白目が黄色くなる、食欲不振 [重篤な肝障害]
- ・ 下痢、激しい腹痛 [重篤な腸炎]

- ・ 息苦しい、発熱、から咳 [間質性肺炎]
- ・ 血が混じった便、黒色便、血を吐く、腹痛 [消化管出血]
- ・ ひどい口内炎、赤い発疹、まぶたや眼の充血 [皮膚粘膜眼症候群]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

<協議会内容確認後のコメント例>

カプセル剤の「くすりのしおり」も同様に修正してください。

商品名

○シート記載で表裏同じ記載なので、表裏の区別せずに記載してください。

表面 K 20mg/0.2g 包、裏面 K 20mg/0.2g 包
→ (0.2g 分包) K、20mg/0.2g 包

この薬の作用と効果について

○この薬の作用を説明しているので「この薬は、」や「…ようにした薬です」は不要です。（事例集のために一部補足）

体内でフルオロウラシル（抗がん剤）に変換され、その濃度を上昇させ抗腫瘍効果を高め、オテラシルは消化管組織に分布して消化管でのフルオロウラシル変換を抑えて消化器毒性（副作用）を軽減します。通常、胃がん、結腸・直腸がん、頭頸部がん、非小細胞肺癌ん、手術不能または再発乳がん、膵がん、胆道がんの治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

○併用薬については項末の「他に薬を使っている」に該当するので、不要です。また、患者から事前に伝えることが難しく、「がん化学療法に十分な知識・経験をもつ医師」のもとで使用されるので不要です。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。骨髄抑制（白血球数などが少ない）、腎障害、肝障害、感染症、耐糖能異常、間質性肺炎または既往歴、心疾患または既往歴、消化管潰瘍または出血がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

○日にちと週の併記は不要です。

「フッ化ピリミジン系の薬と絶対に一緒に飲んではいけません。」は医師への注意であり、患者が勝手に飲むことができないので不要です。

「服薬状況や…」は添付文書に記載がない一般的な事項ではないでしょうか。削除してください。

- ・ 通常、成人は初回体表面積に合わせてテガフルとして 1.25m²未満では 40mg、1.25～1.5m²未満では 50mg、1.5m²以上では 60mg を基準として 1 日 2 回朝食後と夕食後に 28 日間連続で服用し、その後 14 日間休みます。これを 1 クールとして繰り返しますが、状態により適宜増減されます。増減量の段階は 1 回 40mg、50mg、60mg、75mg とされており、1 回 75mg が限度、最低量は 1 回 40mg とされています。この薬は 1 包中にテガフルとして 20mg を含んでいます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は、次の服用時間に 1 回分服用してください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲む量や服用期間を変更しないでください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

- 「体がだるい」は添付文書どおり「全身倦怠感」にしてください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。
このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- 「くすりのしおり」の画面から添付文書をみることができるので、添付文書に初期症状の記載がある場合はこれを優先してください。また、できるだけ5項目に絞ってください。

- ・ 発熱、咽頭痛、貧血 [骨髄抑制、溶血性貧血]
- ・ 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎などの重篤な肝障害]
- ・ 下痢、激しい腹痛 [重篤な腸炎]
- ・ から咳、呼吸困難、発熱 [間質性肺炎]
- ・ 吐血・下血、血便・黒色便、腹痛 [重篤な口内炎、消化管潰瘍、消化管出血、消化管穿孔]
- ・ 発熱、粘膜の赤い発疹・水疱、眼の充血 [皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症]

<協議会修正案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2009年6月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリ配合顆粒

主成分：テガフル（Tegafur）
ギメラシル（Gimeracil）
オテラシルカリウム（Oteracil potassium）

剤形画像準備中

剤形：白色の顆粒剤

シート記載：（0.2g 分包）K、20mg/0.2g 包

この薬の作用と効果について

体内でフルオロウラシル（抗がん剤）に変換され、その濃度を上昇させ抗腫瘍効果を高め、オテラシルは消化管組織に分布して消化管でのフルオロウラシル変換を抑えて消化器毒性（副作用）を軽減します。通常、胃がん、結腸・直腸がん、頭頸部がん、非小細胞肺癌、手術不能または再発乳がん、膵がん、胆道がんの治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。骨髄抑制（白血球数などが少ない）、腎障害、肝障害、感染症、耐糖能異常、間質性肺炎または既往歴、心疾患または既往歴、消化管潰瘍または出血がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ：医療担当者記入
- ・ 通常、成人は初回体表面積に合わせてテガフルとして 1.25m² 未満では 40mg、1.25～1.5m² 未満では 50mg、1.5m² 以上では 60mg を基準として 1 日 2 回朝食後と夕食後に 28 日間連続で服用し、その後 14 日間休みます。これを 1 クールとして繰り返しますが、状態により適宜増減されます。増減量の段階は 1 回 40mg、50mg、60mg、75mg とされており、1 回 75mg が限度、最低量は 1 回 40mg とされています。この薬は 1 包中にテガフルとして 20mg を含んでいます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は、次の服用時間に 1 回分服用してください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲む量や服用期間を変更しないでください。

生活上の注意

- ・ この薬の使用中は、症状のあらわれない副作用を見つけるためにも、定期的（2 週間に 1 回以上）な臨床検査（血液、肝機能、腎機能検査など）が行われますので、受診日はできるだけ守ってください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、食欲不振、はきけ、嘔吐、下痢、全身倦怠感、口内炎、色素沈着、発疹、流涙などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 発熱、咽頭痛、貧血 [骨髄抑制、溶血性貧血]
- ・ 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎などの重篤な肝障害]
- ・ 下痢、激しい腹痛 [重篤な腸炎]
- ・ から咳、呼吸困難、発熱 [間質性肺炎]
- ・ 吐血・下血、血便・黒色便、腹痛 [重篤な口内炎、消化管潰瘍、消化管出血、消化管穿孔]
- ・ 発熱、粘膜の赤い発疹・水疱、眼の充血 [皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

424 抗腫瘍性植物成分製剤

エトポシド

<企業提案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2007年3月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリカプセル 25mg

主成分：エトポシド（Etoposide）

剤形：薄いだいだい色のカプセル剤

シート記載：クスリカプセル、25mg、KusuriCap.、25mg



この薬の作用と効果について

細胞のDNA（デオキシリボ核酸）の複製に関わる酵素の働きを抑えて、がん細胞の増殖を抑えます。通常、肺小細胞癌、悪性リンパ腫または子宮頸癌に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。骨髄抑制、肝障害、腎障害がある。感染症、水痘症（水ぼうそう）にかかっている。この薬を長期間服用している。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** ：医療担当者記入
- ・ **肺小細胞癌**：通常、成人は1日主成分として175～200mgを5日間毎日服用し、3週間休みます。これを1クールとし、服用を繰り返します。本剤は1カプセル中に主成分25mg含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ **悪性リンパ腫**：状態に応じA法またはB法を選択されます。
A法：通常、成人は1日主成分として175～200mgを5日間毎日服用し、3週間休みます。これを1クールとし、服用を繰り返します。本剤は1カプセル中に主成分25mg含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
B法：通常、成人は1日主成分として50mgを21日間毎日服用し、1～2週間休みます。これを1クールとし、服用を繰り返します。本剤は1カプセル中に主成分25mg含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ **子宮頸癌**：通常、成人は1日主成分として50mgを21日間毎日服用し、1～2週間休みます。これを1クールとし、服用を繰り返します。本剤は1カプセル中に主成分25mg含有します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時に1回分飲んでください。ただし、次の飲む時間近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ この薬の使用中は臨床検査（血液、肝機能、腎機能検査など）が行われます。受診日を守ってください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、脱毛、食欲不振、悪心（吐き気）・嘔吐、倦怠感（体がだるい）、口内炎、過敏症（発疹）などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 貧血、発熱、出血傾向（鼻血、歯ぐきの出血、皮下出血など）、体がだるい [汎血球減少などの骨髄抑制]
- ・ 発熱、から咳、息苦しい [間質性肺炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師また

は薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保存してください。
- ・ この薬を他の人に渡さないでください。
- ・ 薬の残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

<協議会内容確認後のコメント例>

商品名

○剤形には大きさも号数ではなく、mm 単位で追記してください。

薄いだいたい色のカプセル剤→薄いだいたい色のカプセル剤、長径 14.5mm、短径 5.06mm

この薬の作用と効果について

○効果に「の治療」を加えた方が適切です。

細胞の DNA (デオキシリボ核酸) の複製に関わる酵素を阻害し、がん細胞の殺細胞と増殖抑制を示します。

通常、肺小細胞癌、悪性リンパ腫、子宮頸癌の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

○「この薬を長期間服用している。」は医師への注意喚起事項なので不要です。記載を整理してください。

用法・用量 (この薬の使い方)

○作成要領の定型文に従い、カプセル数を記載してください。その場合、カプセル中の含量表示は不要です。「適宜増減」を追記してください。

- ・ 肺小細胞癌：1クールとして、通常、成人は1日7～8カプセル（主成分として175～200mg）を5日間毎日服用し、その後3週間休みます。
 - ・ 悪性リンパ腫：状態に応じA法またはB法を選択され、1クールとします。（A法）通常、成人は1日7～8カプセル（主成分として175～200mg）を5日間毎日服用し、その後3週間休みます。（B法）通常、成人は1日2カプセル（主成分として50mg）を21日間毎日服用し、その後1～2週間休みます。
 - ・ 子宮頸癌：1クールとして、通常、成人は1日2カプセル（主成分として50mg）を21日間毎日服用し、その後1～2週間休みます。
- いずれも、1クールとした服用を繰り返します。治療を受ける疾患や症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。

生活上の注意

○「この薬の使用中は臨床検査（血液、肝機能、腎機能検査など）が行われます。受診日を守ってください。」で、「臨床検査」は医師の医療行為であり、「受診日を守る」ことは一般的な注意事項と思われるので削除が妥当です。記載を残す場合は「頻回に」を入れてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

○過敏症の内容が発疹しかないのので、まとめのタイトルは不要です。「悪心」は「吐き気」に置換えできます。わかりにくい場合は注釈も必要ですが、「倦怠感」の注釈は不要と考えます。

主な副作用として、脱毛、食欲不振、吐き気・嘔吐、倦怠感、口内炎、発疹などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

○初期症状の表現は添付文書の記載を優先し、ない場合は「くすりの副作用用語事典」などを参照し、簡潔に記載してください。例示します。

身体がだるい→全身倦怠感 息苦しい→呼吸困難

保管方法その他

○2項目「この薬を他の人に渡さないでください。」は一般的な注意事項なので不要です。

<協議会修正案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2007年3月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリカプセル 25mg

主成分：エトポシド（Etoposide）

剤形：薄いだいだい色のカプセル剤、長径 14.5mm、短径 5.06mm

シート記載：クスリカプセル、25mg、KusuriCap.、25mg



この薬の作用と効果について

細胞の DNA（デオキシリボ核酸）の複製に関わる酵素を阻害し、がん細胞の殺細胞と増殖抑制を示します。通常、肺小細胞癌、悪性リンパ腫、子宮頸癌の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。骨髄抑制、肝障害、腎障害、感染症、水痘（水ぼうそう）がある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** << >> : 医療担当者記入
 - ・ **肺小細胞癌**：1クールとして、通常、成人は1日7～8カプセル（主成分として175～200mg）を5日間毎日服用し、その後3週間休みます。
 - ・ **悪性リンパ腫**：状態に応じA法またはB法を選択され、1クールとします。（A法）通常、成人は1日7～8カプセル（主成分として175～200mg）を5日間毎日服用し、その後3週間休みます。（B法）通常、成人は1日2カプセル（主成分として50mg）を21日間毎日服用し、その後1～2週間休みます。
 - ・ **子宮頸癌**：1クールとして、通常、成人は1日2カプセル（主成分として50mg）を21日間毎日服用し、その後1～2週間休みます。
- いずれも、1クールとした服用を繰り返します。治療を受ける疾患や症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時に1回分飲んでください。ただし、次の飲む時間近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
 - ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
 - ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・ 使用中は頻回に臨床検査（血液、肝機能、腎機能検査など）が行われますので、受診日や指示された検査を守ってください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、脱毛、食欲不振、吐き気・嘔吐、倦怠感、口内炎、発疹などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 出血、貧血、全身倦怠感 [汎血球減少などの骨髄抑制]
- ・ 発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保存してください。
- ・ 薬の残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

429 その他の腫瘍用薬

ビカルタミド

<企業提案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2009年5月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリ錠 80mg

主成分：ビカルタミド（Bicalutamide）
 剤形：白色の錠剤、直径 7.6mm、厚さ 4.4mm
 シート記載：クスリ錠 80mg、80mg、Kusuri

**この薬の作用と効果について**

前立腺細胞の男性ホルモン（アンドロゲン）の受容体に対するアンドロゲン結合を阻害し、抗腫瘍作用を示します。
 通常、前立腺がんの治療に用います。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ あなたの用法・用量は◀ : 医療担当者記入》
- ・ 通常、成人は1回1錠（主成分として80mg）を1日1回服用します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時に1回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は飲み忘れた分は飲まずに、次に飲む時間に1回分を飲んでください。2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意**この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）**

主な副作用として、乳房の腫脹、乳房の痛み、ほてり、性欲減退、勃起力低下などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目などの黄染 [肝機能障害、黄疸]
- ・ のどの痛み、発熱、頭痛 [白血球減少]
- ・ 鼻血、歯ぐきの出血、四肢などの皮下出血 [血小板減少]
- ・ 発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

<協議会内容確認後のコメント例>

用法・用量（この薬の使い方）

○「飲み忘れ・・・」には劇薬でもあり、通常どおり「絶対に」を追記してください。

- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時に1回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は飲み忘れた分は飲まずに、次に飲む時間に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

○判りにくい場合以外は添付文書の用語を優先してください。

主な副作用として、乳房腫脹、乳房圧痛、ほてり、性欲減退、勃起力低下などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

<協議会修正案例>

くすりのしおり

4200000F000

444444444

内服剤

2009年5月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。このために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：クスリ錠 80mg

主成分：ビカルタミド（Bicalutamide）
剤形：白色の錠剤、直径 7.6mm、厚さ 4.4mm
シート記載：クスリ錠 80mg、80mg、Kusuri



この薬の作用と効果について

前立腺細胞の男性ホルモン（アンドロゲン）の受容体に対するアンドロゲン結合を阻害し、抗腫瘍作用を示します。
通常、前立腺がんの治療に用います。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・ 以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
- ・ 妊娠または授乳中
- ・ 他に薬を使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、大衆薬も含めて他に使用中の医薬品に注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・ **あなたの用法・用量は** **：**医療担当者記入
- ・ 通常、成人は1回1錠（主成分として 80mg）を1日1回服用します。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・ 飲み忘れた場合は気がついた時に1回分を飲んでください。ただし、次に飲む時間が近い場合は飲み忘れた分は飲まずに、次に飲む時間に1回分を飲んでください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・ 誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・ 医師の指示なしに、自分の判断で飲むのを止めないでください。

生活上の注意

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、乳房腫脹、乳房圧痛、ほてり、性欲減退、勃起力低下などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[] 内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・ 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目などの黄染 [肝機能障害、黄疸]
- ・ のどの痛み、発熱、頭痛 [白血球減少]
- ・ 鼻血、歯ぐきの出血、四肢などの皮下出血 [血小板減少]
- ・ 発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法その他

- ・ 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・ 薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄については受け取った薬局に相談してください。

医療担当者記入欄 年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。